

臨床心理学編 第2部

生活の中の臨床心理学シリーズ

全10巻

■時間:各巻約25～27分

1

ひきこもり

指導:大矢泰士(東京国際大学)

ひきこもる青年や成人の増加は、社会問題とみなされるに至っているが、その実像と心理学的な背景は実に多様で、単純に一括りにして考えることはできない。このビデオでは、いわゆる社会的ひきこもりの状態にある人々を適切に理解し援助するため、その全体像、いくつかのタイプとパーソナリティー、背景にある心の動き、思春期・青年期の発達との関係などについて解説し、現在行われている様々な援助の方法(個人、グループ、家族援助)と、その基本にある考え方を紹介していく。

「血液型と性格」というと多くの人は「相性占い」とか、「運勢判断」など

2

血液型と性格

指導:大村政男(日本大学名誉教授)

「血液型と性格」というと多くの人は「相性占い」とか、「運勢判断」などを連想する。そして、それは心理学を超えた人間理解であるとか、おかしい偽科学にすぎないとか批評する。しかし、この問題は歴史的に回顧しても、現代の心理学的センスで考察しても、人間性の科学的な理解に重要な意味を持っているのである。心理学界でも1980年代から積極的に「血液型と性格」に取り組んでいる。ここでは人間はなぜそれを信じてしまうのか、臨床心理学的にはどう考えていけばいいのかについて解説する。

3

パーソナルスペース& ノンバーバルビィヘイビィヤー

指導:渋谷昌三(目白大学)

パーソナル・スペース(個人空間)は自分と他者との間に保たれる空間である。例えば、自我の拡大した空間、自己を庇護する空間、コミュニケーションのための空間などと考えられている。

この作品では、対人場面におけるパーソナル・スペースの役割を非言語コミュニケーション(プロクセミックス、動作学、環境要因など)を視野に入れて解説した。また、臨床場面での具体的な応用例を紹介した。

4

親と子

指導: 小野寺敦子(目白大学)

人間関係の中で親と子どもの関係は、最も基本的で大切な関係であり、幼い時から親子関係はその人の生き方に大きな影響を与えている。

それと同時に、親自身も子育てを通じて多くのことを学び、人格的成長をしている。この作品では生涯発達の視点から母親と子ども、父親と子どもとの関係をみていく。そして成人期の親子関係では、長年にわたって悩み続けてきた母親との関係を、40代後半になってようやく修復できた女性の事例、現代社会で大きな問題となっている親を介護するという問題などに触れる。

5

羞恥心

指導: 菅原健介(聖心女子大学)

羞恥心とは人の心に取りつけられた一種の行動監視システムである。個人の社会的行動をモニターし、問題を見つけると、「恥ずかしい!」という警告信号を発して行動の修正を迫る。道徳的行動から日常の何気ない動作まで、私たちは日々、この羞恥心によって影響を受けているが、その性質についてはよく分らない面も多い。誉められるとなぜ恥ずかしいのか? 羞恥に伴う表情は何を伝えようとしているのか? そんな素朴な疑問を中心に、私たちの適応に大きな影響を与える羞恥心の謎を考える。

6

子どもの虐待と ドメスティック・バイオレンス

指導: 戸田まり(北海道教育大学)

家庭は心休まるプライベートな場所であると同時に、外の世界からのぞくことができない閉鎖空間とも言える。「親子や夫婦などの家庭関係に他人が口出すべきではない」と考えるのはもともとだが、今日では、実親が子を虐待したり、好きで結婚した相手に暴力をふるうこともありが、事が認識されつつある。さまざまな意味での介入が余儀なくされているのである。

どんな人かどんな条件でこのような許されない行為をおこなってしまうのだろうか。私たち皆が自覚しなければならない事は何か。この作品では、家庭という安らぎであるはずの場所で、暴力がはびかるのを防ぐには何ができるのかを考える。

7

スクールカウンセリング

指導: 平野直己(北海道教育大学)

平成7年度より文部科学省の研究事業として全国の学校にスクールカウンセラーの派遣が開始されて以来、その活動は年々広がりを見せており、臨床心理学において重要な実践として注目されている。

この作品では、スクールカウンセリングの実際の活動を紹介しながら、学校の中で臨床心理学の発想をどのように活かしていくか、そして心理臨床のさまざまな領域の中で学校臨床はどんな点で特徴的であるかなどを解説する。

8

学校嫌い、

指導: 菊島勝也(愛知教育大学)

学校嫌いについて、マクロな視点からの理解として、近年の増加している状況と、これまで指摘されてきた要因について解説する。次に、状態像の分類や日常生活におけるストレスとの関係というミクロな視点からの説明を行う。続いて、学校に行かなかった経験を持つ社会人の方にインタビューを行い、その当時の気持ちや、学校に行かないという経験が現在の自分にとってどのような意味を持っているかについて語っていただく。最後に、この現象を理解し援助するために持つべき視点を論じる。

9

うそ

指導: 村井潤一郎(文教学院大学)

私たちは、日常的にうそをつき、またうそをつかれる。うそという切り口から人間を眺めた場合、いったいどのようなことがみえてくるのだろうか。

この作品では、うそについての心理学的研究、青年にとってのうその意味、臨床場面におけるうそ、などのテーマを取り上げながら、うそと人間のかかわりについて多角的に論じる。本作品の目的は、うそについて考える、そのきっかけを提供することにある。うそについて考えることは、人間の真実の姿について考えることである。

10

ストレス

指導: 琢摩武俊(東京都立大学名誉教授)

ストレスという言葉は心に負担をかけられている状態という意味で現在は用いられている。爽快、快活、透明感がある、とは反対の状態で気が重い、沈うつ、閉塞感が認められ、ときには自殺企図にも発展する。稀薄な人間関係を特徴とする現在のわが国の社会にはとくに著しいといえる。ストレスはどのようにして生じ、どんな身体的、心理的症状を示し、これにどのように対処するのがいいか、どんな性格の人がストレスを受けやすいのか、というような問題をこのVTRで述べるつもりである。

・お問合せ・お申込みは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp